氏　　名：竹森　志穂
学 位 の 種 類：博士（看護学）
学 位 記 番 号：甲第 154 号
学位授与年月日：2017 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査　中山　和弘（聖路加国際大学教授）
　　副査　麻原　きよみ（聖路加国際大学教授）
　　副査　山田　雅子（聖路加国際大学教授）
　　副査　中村　順子（秋田大学教授）

論　文　題　目：病棟勤務経験後に訪問看護を始めた看護師の「訪問看護と職場への適応」と関連する要因および継続意欲との関連

博士論文審査結果

日本における少子高齢化への対策として地域ケア・在宅ケアが重視されているが、在宅ケアを担う訪問看護師の人数は増大する需要に追いつかないのが現状であり、訪問看護を始める看護師を確保すると同時に、継続のための支援や体制整備が喫緊の課題である。新たに訪問看護を始めた看護師の適応状態や、それを促進する要因および継続意欲との関連を明らかにすることによって、訪問看護師の仕事継続につながることが期待できる。

本研究は、病棟勤務経験後に訪問看護を始めた看護師の「訪問看護と職場への適応」とそれに関連する要因および継続意欲との関連を分析し、「訪問看護と職場への適応モデル」を構築することを目的とした。予備研究として、インタビューによる質的記述的研究を実施し、「訪問看護と職場への適応」を構成するカテゴリおよび関連要因等を分析した。本研究は、自記式質問紙を用いた量的記述研究であり、全国の訪問看護ステーションに勤務している看護師で、病棟勤務経験があり訪問看護経験 3 年以内の者を対象に実施した。

研究結果より、「訪問看護と職場への適応」の 6 つの下位概念とその関係性が示され、ワーク・エンゲイジメントと双方向の関係にあり、仕事の資源により促進され、継続意欲につながるという最終モデルが示された。また、職場への信頼と所属感が高いほど、訪問看護をこれからも今の職場で続けたいと考え、訪問看護の価値の認識や看護師としての成長への意欲が低いほど、訪問看護自体を辞めたいと考える傾向が示され、所属感や訪問看護の価値を感じることのできる支援の重要性が示唆された。

審査では、修正点として、「訪問看護と職場への適応」の因子名を訪問看護の現場をイメージできるような名称に変更すること、6 因子間の関係性を検討した上で最終モデルにおける他の概念との関連を再検討することなどが指摘された。

これらを検討した上での修正が確認され、本研究は、訪問看護経験の少ない看護師が訪問看護の仕事と職場の環境に適応した状態に焦点をあて、その構成要素や関連要因および継続意欲との関連を示した点で独創性があり、日本国内の在宅ケア・訪問看護の現場に貢献するだけでなく、国際的にも同じ状況にある看護師の理解および支援に活用できることが期待でき、看護の発展に広く寄与する研究として高く評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。